令和２年度入学式式辞

校長　澤山 陽一

伊予の広野を自由に飛び回るツバメ、山の木々の柔らかな緑、そして、皆さんの入学の日に合わせるかのように咲き誇る桜の花。まさに、春爛漫の今日、多数の保護者の皆様の御出席を得て、令和２年度　愛媛県立伊予農業高等学校の入学式を無事挙行できますことは、生徒並びに教職員一同の大きな喜びであり、心より厚くお礼を申し上げます。

ただ今、入学を許可しました207名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。本年は、新元号である「令和」初の入学式です。このような記念すべき年に、新入生の皆さんを、ここ伊予農に迎え、同じ空間にいることを、私は校長として本当にうれしく思っています。そして、皆さんとともに過ごす三年間が、楽しく充実した日々であることを願ってやみません。

皆さんは、これから伊予農で過ごす三年間、具体的には1056日を、どのように過ごそうと思っていますか。将来の夢をはっきりと定め目的を持って入学した人、まだ将来の夢が定まらず不安でいっぱいの人など様々だと思いますが、皆さんには、中身の詰まった高校生活を過ごしてほしいと考えています。そして、そのために、今日、私は新入生の皆さんに「挑戦」という言葉をプレゼントしたいと思います。

先日、行われた徳島市長選挙で、女性市長としては全国最年少の36歳の若さで当選された内藤佐和子さんのことは、ニュースで見聞きした人が多いと思います。その内藤さんの趣味は、なんと「挑戦」なのだそうです。自分の趣味を「挑戦」だという人に、私は初めて会いました。まさしくこの選挙も、彼女の「挑戦」のひとつだったに違いありません。

内藤さんは20歳の時、脳や脊髄の神経を包むサヤが壊れていく難病の多発性硬化症と告げられ、「なんで私なの」と悔しくて泣いたそうです。しかし、思いっきり泣

いた後、「今やらなくて、いつやるんだ」と、気持ちを切り替え、「難病にかかっているからできないなんて言わせない。難病のイメージを変えたい。」という思いを胸に、果敢にさまざまな「挑戦」を始めました。足のしびれや脱力などの症状を点滴で抑えながら、在学中から携帯サイトの運営にかかわり、2008 年には学生ビジネスプランコンテストで優勝、翌年には学生生活や恋愛をつづった本も出版しました。災害対策など市長の仕事に健康状態を不安視する声もありますが、彼女は「『難病だからできない』という思い込みの壁を壊し、難病の人にもできる仕組みを作っていくのが政治の役目。私自身が市長の仕事をこなすことで、多様な人が活躍する社会につながれば。」とおっしゃっています。

私は、皆さんに「私には無理、できるわけがない」というような思い込みの壁を壊し、自分の夢に向かってできる限りの「挑戦」をしてほしいと思っています。伊予農の先輩の中には、入学当初は 40 人中 40 番の成績だったにも拘らず、教員になる夢に挑戦し、見事教員になった人や、漫画家を目指し「挑戦」を繰り返し、その結果、キング＆プリンス主演のドラマ「部活、好きじゃなきゃダメですか」の原作漫画を描いた人もいます。さあ、今日が皆さんの 1056 日の「挑戦」のスタートです。

私たち教職員は、皆さんひとりひとりの「挑戦」を精いっぱい応援していきます。今日からきっかり 1056 日後の卒業式に、自分の挑戦を笑顔で振り返られるように、私たちと共に歩んで行きましょう。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日はおめでとうございます。

お子様は、これから高校生活を通じて自立の道を歩むことになりますが、伊予農業高校を卒業するときには、故郷に貢献できる健康な体と健全な精神を身に付け、自信にあふれ光り輝くたくましい若者となれるよう、私たち教職員は心を込めてお子様と向き合っていきたいと思っております。

ここに改めて、本校の教育活動に対する御理解と御支援を賜りますようお願い申

し上げ、式辞といたします。